

# 宮崎市立生目台西小学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

本校は、学級数 19 学級（内特殊学級 2 学級）、児童数 489 名、教職員数 36 名、平成 6 年に開校した宮崎市内で最も新しい学校である。校区は、半径 500 m の円内にすべて入る。新興住宅地であるため、地域では「ふるさと生目台」という意識を高めようとする取組が盛んである。その気運の中で、本校は、開校以来地域に密着した学校として、学社連携・融合を推し進めてきた。平成 17 年度は、学校の教育目標「心豊かで創造性に富む心身ともにたくましい子どもの育成」のもと、学力向上、教育相談の充実、体力向上の 3 点を重点的に取り組んでいる。

## 2 児童の実態

学力向上に関して、本校では一昨年度より業前にスタディタイムとして時間を確保し、読み・書き・計算に力を入れてきた。その成果もあり、第 3・5 学年の県小中学校基礎学力検査では、4 教科とも県全体の平均を上回った。しかし、平成 15・16 年度の第 4 学年は市内でも下位にあった。

生活習慣に関して、10 時以降に就寝する児童は全体の約 34.8 % であり、上学年においては約 15 % の児童が 11 時以降に就寝している。又、就寝時間が遅くなるので起床時間も遅くなっている。起床時間は、全体の 30 % 近くの児童が 7 時以降である。さらに、全体の約 10 % の児童が、朝食を食べずに登校する時がある。毎日ゲームをする児童は全体の約 13 %、1 日の中でテレビやゲームの占める時間の割合を見ると全体の 60 % 近くの児童は 2 時間を越えており、学年が上がるにつれて視聴時間が長くなっている。早寝・早起き・朝食、テレビ・ゲームの時間は 2 時間以下という家庭での生活習慣を徹底することも学力向上に重要な要素であると考えている。

## 3 学力向上に向けた経営方針

本校では、研究主題・副題「確かな学力を身に付けた児童の育成 ～読み・書き・計算を中心にした基礎学力の定着を基盤として～」を設定し学力向上に向けて取り組んでいる。

### (1) 研究のねらい

読み・書き・計算を中心とした基礎学力を高め、身に付けた基礎・基本を生かして問題を解決する力を身に付けさせる研究を深化させる。

### (2) 研究仮説

- ① 問題解決的な学習の展開を図り、個に応じたきめ細かな指導を行えば、児童は確かな学力を身に付けることができるであろう。
- ② 反復学習を行うことにより、学びの土台となる基礎学力の定着が図られるであろう。
- ③ 家庭との連携を図り、基本的な生活習慣の改善に努め、学習習慣の在り方を追究することにより、学ぶ意欲が高まり、学ぶことが楽しいと感じる児童を育成できるであろう。

### (3) 研究の視点

- ① 本校における学力向上の在り方はどうあればよいか明確にし研究に取り組む。
- ② 問題解決的な学習の展開を図り、個に応じたきめ細かな指導法を構築する。

- ③ 反復学習による基礎学力の定着を図る。
- ④ 基本的な生活習慣や学習習慣の定着のために家庭との連携を図る。
- ⑤ 学ぶ意欲が高まり、学ぶことが楽しいと感じられる児童を育成する。

(4) 研究方法

- ① 本研究は2か年計画で実施する。(本年度は初年度)
- ② 全体研究会, 班別研究会(授業研究班, 学力分析班, 学習環境班), 部別研究会(低学年部, 中学年部, 高学年部), 研究推進委員会の相互の連携を図る。
- ③ 本年度に主題研究に関わる研究授業を計5回実施する。(学校訪問時3回・・・うち学級活動との関連1回) 10月・・・2回(うち1回は情報教育研修との関連)

4 教育課程内の取組

(1) 学力向上につながる指導過程の研究

- ① 基礎基本の定着を目指した導入の在り方
  - 百玉そろばん
  - フラッシュカード(漢字・計算)
  - 国語辞典の活用
- ② 自力解決・練り合いの段階の充実
  - 学習意欲, 知的好奇心, 自分で計画を立て学習を進めていく力, 学習を行うときの集中力や持続力, コミュニケーション力をつけるというねらいの基に, 自力解決・練り合いの場面を指導過程に設定している。



フラッシュカード

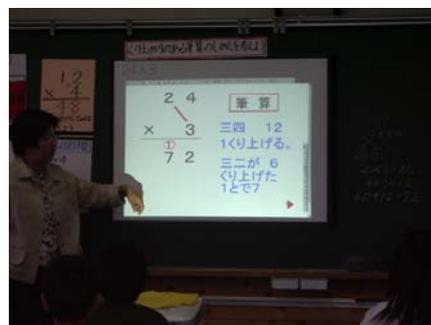
(2) 補充・発展教材教具の開発と活用

- ① デジタルコンテンツの活用
- ② ビデオ版ストップウォッチ作成と活用

(3) 習熟度別少人数指導法の研究

プレテストを行い, その結果をもとに, 子どもや保護者の希望を考慮しながら, 2つの習熟度別グループ(ぐんぐんコース・じっくりコース)に分ける。

習熟度別少人数指導におけるコース別単元の指導計画を作成し, 実践している。



デジコン活用授業

5 教育課程外の取組

(1) スタディタイム(月・水・木曜の朝15分)における取組

上旬	中旬	下旬
音読・視写	百ます計算	漢字

① 音読・視写(5分音読・10分視写)

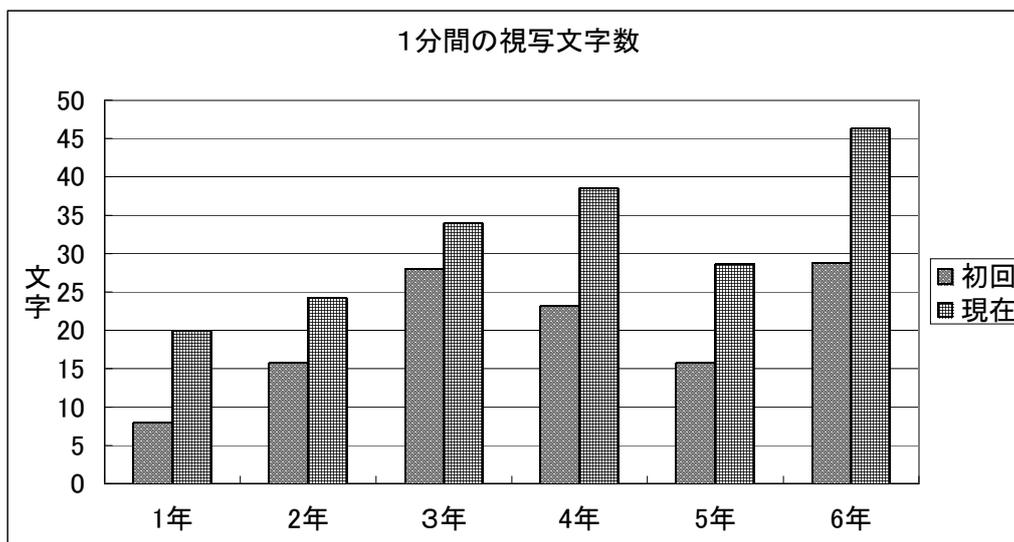
ア 音読の取組

各学年一月一主題を決め, 発声発音に気を付けながら口の形を意識して, 腹から声を出

させていく。ある程度テンポよく読ませ、上手に読めたらすかさずほめる。さらに、音読集会や給食時間の学級めぐり等での発表の場を確保していく。

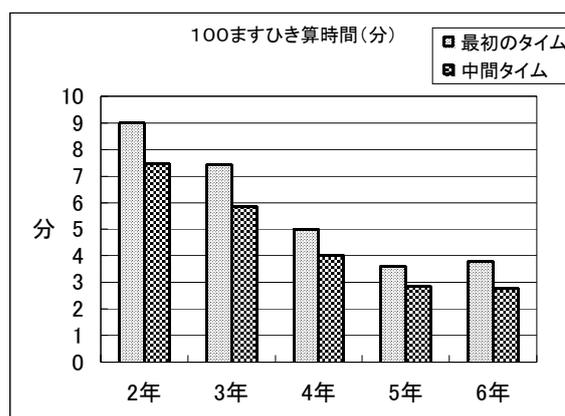
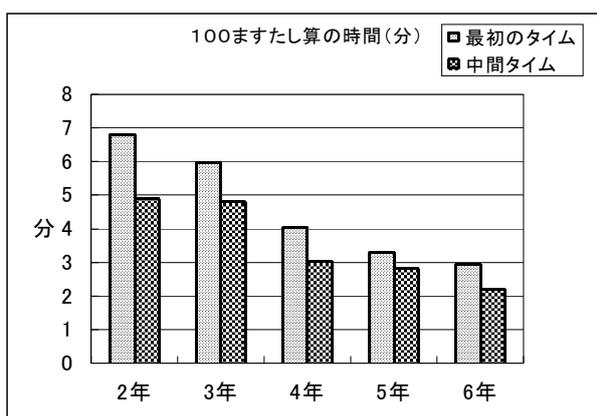
### イ 視写の取組

各学年一月一主題を決め、1分間集中して取り組ませた後、自分で字数を数える。担任が記録を取った後、残った部分を書き上げさせる。目標としては、低学年が分速20字～25字、中学年が25字～30字、そして高学年が30字～35字としている。



### ② 百ます計算

全学年、同じ問題を使って、一月ごとにたし算・ひき算・かけ算をくり返し行う。ただし、低学年においては学習内容に応じて取り組む。



### ③ 漢字

教科書に準じて作成した「チャレンジ漢字」のプリントを活用して小テストを行い、自分の覚えていない漢字を認識しながら、くり返し書いていく。

### (2) 読書活動への取組

#### ① 読書量アップへの具体的取組

ア 読みたくなる「環境の工夫」

- ・ 図書ホールにおける季節に応じた設営の工夫

イ クラスごとの貸し出し状況表示

ウ 年3回の「多読賞の表彰」

- ・ 7月末……………各学年貸し出し冊数による読書量上位5位
- ・ 12月末……………おすすめ図書を紹介し、その中の読書冊数で上位5位
- ・ 2月末……………おすすめ図書の冊数及び読書感想を含む記録を考慮して上位5名

## 6 保護者・家庭、地域との連携

- (1) 「早寝・早起き，朝食，テレビ・ゲームは2時間以内」を合い言葉に，機会あるごとに生活習慣を整えることの大切さを伝えている。徹底を図るため，個別指導を行う。
- (2) 家庭との連携を図ることが学力向上につながるという考え方から，学力向上通信を発行し，学級懇談の資料として活用している。
- (3) 家庭学習の啓発のために，全家庭に『家庭学習のてびき』を配布し，児童の自主学習への取組に支援をお願いしている。
- (4) 読書推進のために
  - ① 月に3回（木曜日の朝20分），低・中・高学年の各学級において，保護者のボランティアグループ“ほっとタイムサークル”による読み聞かせを実施している。
  - ② 2年は国語の学習において，保護者によるブックトークを実施している。
  - ③ 1年は昼休み等において，保護者による大型紙芝居やエプロンシアターを実施している。
- (5) 各教科や総合的な学習の時間に，地域の方に話を聞いたり諸活動を共にしたりしている。

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

- (1) 授業の導入に百玉そろばんやフラッシュカードを利用することにより，児童の授業への集中力が増した。今後は「自力解決」「練り合い」段階の更なる工夫を図っていく。
- (2) スタディタイムを計画的に行うことができた。又，その結果の分析・考察を行うことにより，次への課題を明確にすることができた。
- (3) 学力向上には基本的な生活習慣や学習習慣の定着が必要であると考え，家庭との連携を図る手立てを講じたことは，研究の方向性としては正しかった。今後も更に，研究を進めていく。
- (4) 本校における学力向上の在り方を再度見直し，研究に取り組んでいかなければならない。
- (5) 少人数指導担当と担任との連絡を密にしながら，児童一人一人にきめ細かな指導を行っていく。
- (6) 学ぶ意欲が高まり，学ぶことが楽しいと感じる児童を育成するという研究を今後も継続していく。